

男子・高岡商

9年前の雪辱期す



1回戦は市立船橋（千と低く、市立船橋とは10歳で初戦突破を目指す。県大会途中で左足首を平均身長は約175センチ、強い守りと攻守の切り替

負傷した主将でフォワード（FW）の荒川が復帰した。内、外からの攻撃が可能な荒川と、県予選から定位置をつかんだFWの澤田を3年生の小竹、涼夏、矢野が支える。

bjリーグ・富山グラウジーズの野尻晴一を擁した1998年の大会では2回戦で市立船橋に敗れ、市立船橋は準優勝した。就任14年目の奥川賢一監督は「最も小柄なチーム」という

まず初戦突破をこ意気込む男子・高岡商の選手
＝高岡市の同校体育館

まず1勝挙げたい

荒川主将 県大会の決勝で20点差を逆転した経験が自信になった。相手は強いが重圧はない。小柄なチームの有利な点を発揮し、まず1勝を挙げたい。



が、豊かな発想で攻守に創造性を発揮するメンバーは9年前の雪辱を期す。

▽監督 奥川賢一▽コーチ 船井貴博▽マネージャー 棚田敬◎▽選手 荒川正太◎、澤田晃太◎、大橋信希◎、坂口飛夢◎、三浦大樹◎、深田之介◎、飛田雄平◎、寺原寛◎、神林基◎、左近史◎、小竹浩介◎、涼夏◎、山本左◎、西村慶◎、矢野浩章◎

第38回全国高校バスケットボール選抜優勝大会は23日に東京体育館で開幕、男子は高岡商が5年ぶり8度目、女子は高岡一が21年ぶり3度目のひのき舞台に挑む。快進撃を期す両チームの特色と主将の意気込みを紹介する。

（数字は学年）

23日・東京

全国高校選抜バスケット